

課コード	005110	作成日	平成20年3月31日
所属名	指導課	作成者	中道 充義

政策名(上位目的)
生きる力を育てる学校教育の推進
目の名称
教育指導費

分野	部	課	施策・事務事業		
計画コード	款	項	事項		
科目コード	46	01	16	56	00 00
(旧科目コード)	46	01	16	28	00 00

事業名		戦略性	
交流教育推進事業			
事業概要			
目的	(対象、意図、求められる結果)	開始年度	終了予定年度
三遠南信地域の飯田市、豊橋市、浜松市3市の中学生及び教員が相互に交流することによって、視野や見識を広める。		平成 5 年	
活動内容			
1 フレンドシップ交流事業(浜松) 飯田市・豊橋市・浜松市3市の中学生交流及び教員交流等を実施する。 ・3市の中学生代表が、夏休みに1泊2日で各市を順に訪問する。(3市が交替で開催) ・3市の教員が互いの市を訪問し、研修を深める。 ・中学生のボランティア活動として、飯田市から寄贈されたリンゴ並木(フルーツパーク内)の世話をを行う。 2 中学生海外派遣事業(春野)...平成20年度廃止 3 豊かな体験活動推進事業(浜松 県10/10)...平成20年度廃止			
事業の性格分類		実施根拠(法令、条例等)	
義務的事業	任意的事業	新市建設計画事業	ワークショップ提案事業
		×	×
事業運営方法			
直営	一部委託	全部委託	補助等

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度最終予算	H20年度当初予算	H21年度計画額	H22年度計画額	前期4年間計
事業費(千円)		4,519	4,008	3,739	1,187			
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金			2,200				
	市債							
	受益者負担分(使用料等)							
	その他							
一般財源		4,519	4,008	1,539	1,187			
人件費		2,400	2,400	800	800			
内訳	人工	0	0	0	0			
	単価	8,000	8,000	8,000	8,000			
計	年間経費	6,919	6,408	4,539	1,987			
	受益者負担率	0	0	0	0			

性質別内訳		人件費	扶助費	公債費	物件費	維持補修	補助費等	積立金	投資及び出資金	貸付金	繰出金	投資の経費	公営企業
平成18	2,400				2,946		1,062						
19	800				2,983		756						
20	800				1,114		73						

定量評価						
指標1	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
中学生交流参加校 ÷ 市内中学校数 × 100	目標	%	100	100	100	100
	実績	%	100	100		
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	6,408	4,539	1,987		
単位当たり経費	千円/単位	64	45	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率	%		70.8%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

指標2	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%				
	実績	%				
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	6,408	4,539	1,987		
単位当たり経費	千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率	%		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

定性評価		
過年度の実施内容		
飯田市、豊橋市、浜松市の3市の中学生交流及び教員交流を通して、互いの教育を学び合うことにより教員の資質向上、学校教育活動の充実が図られる。		
事前評価	必要性	(分析・理由)
	A	飯田市、豊橋市、浜松市の3市の中学生が広い視野で考える貴重な機会であり、教職員が互いの教育を学び合うことにより教職員の資質向上、学校教育活動の充実が図られている。
事前評価	行政関与の妥当性	(分析・理由)
	A	行政の効率的運用の観点から広域行政の必要性が高まり、市内中学校生徒、小中学校教職員を対象に実施している事業である。
事後評価	有効性	(分析・理由)
	A	飯田市、豊橋市、浜松市の3市の中学生が広い視野で考える貴重な機会であり、教職員が互いの教育を学び合うことにより教職員の資質向上、学校教育活動の充実が図られた。
事後評価	効率性	(分析・理由)
	A	交流事業の開催地が持ち回りで、前年豊橋だったのが浜松市での開催となり経費が減少したため。
今後の事業展開		
規模		(分析・理由)
現状	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止	三遠南信の広域交流は、各分野で盛んになっていくと考えられるが、教育面でもますます充実させていくことが求められている。三市の交流は貴重な体験活動となっているため、今後も継続していきたい。
具体的な改善内容・事業の方向性等		
三遠南信の広域交流は、各分野で盛んになっていくと考えられ、教育面でもますます充実させていくことが求められているが、15年ほど交流事業を実施していることから、事業内容について見直す時期にきている。 (問題意識) フレンドシップ交流事業のうち、本市中学生のボランティア活動(飯田市から寄贈されたフルーツパーク内のリンゴ並木の世話)については、長年実施しているうちに当初の目的からずれてきている状況も見られ、事業の見直しが必要である。 (想定結果) 廃止すべきもの 市の実施が適当だが改善を要するもの		
(備考) 事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘		